

三重県総合博物館の評価制度について

3年ごとに戦略的な計画（Strategic Plan）を策定し、優先順位を明確にして、経営資源を効果的に配分する。その戦略計画に沿った活動を業績測定型（Performance Measurement）の手法により事業全体を評価して次期戦略計画に反映していく。また、個別事業の学びと改善のために各種事業の評価も実施していく。

●戦略計画の決め方（SWOT 分析）

博物館の状況を分析するため、博物館内部の強みと弱み、博物館では変えることができない社会的・文化的・政治経済的な環境としての機会（チャンス）と脅威（ピンチ）を網羅し、事業の見直し・検討をする分析方法を採用しています。

戦略計画や業績評価型の評価制度の策定には、博物館学が専門の下記4名の外部有識者に参画いただいています。

1) 佐々木亨氏

北海道大学 大学院文学研究科 教授

博物館学・文化人類学が専門で、科学研究費・基盤研究C「公立ミュージアムでの評価導入・運用の検証と〈評価パッケージ〉の提案」(課題番号:22601001、2010～2013 年度)をテーマに各地の博物館を対象に実施しており、三重県総合博物館もその一つである。

2) 高井健司氏

大阪市経済戦略局 文化部文化課 経営形態担当課長

大阪市の博物館の経営形態を検討している。

3) 泰井良氏

広島県立美術館 主任学芸員

明治の近代洋画が専門、静岡県立美術館では博物館評価を担当。

4) 黒岩啓子氏

Learning Innovation Network

博物館学が専門で、フリーランスとして全国の博物館において特に展示やワークショップの企画や評価に関わっている。

●三重県総合博物館ならではの活動によって目指すべき社会の姿（ビジョン）

三重県総合博物館が今後、受け持ちたいと考えている三重県総合博物館らしい社会的な存在意義を内外に示すため、SWOT 分析を参考に、三重県総合博物館の使命の先にある具体的な社会の将来像をビジョンとしてまとめました。

○三重県総合博物館の「ビジョン」

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までをも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもったことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

●戦略計画の策定

ビジョンを達成するために平成26～28年度まで（3年間）の戦略計画を、SWOT分析を基に策定しました。

○平成26～28年度まで（3年間）の戦略計画（案）

「県民・利用者みなさんが、博物館と関わる輪を広げ、三重と博物館を何度も利用したくなるような博物館活動に力点をします」

- ①新たな利用者のすそ野が広がり、何度も利用してもらえるように、事業内容を充実し、広く広報します。
- ②地域づくりに貢献できるような総合的な研究に、対象を絞って集中的に取り組むことを通じて、地域にある資料の学術的価値付けとその情報を発信します。
- ③収蔵資料の保存・整理の機能を強化します。
- ④評価制度を活用して、事業を選択し、経営資源を効果的に配分します。
- ⑤博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します。

●5つの戦略目標の精査とそれにひもづく戦術と、その戦術を評価する評価指標、および評価の枠組みを、現在検討しています。

●評価制度の設計スケジュール

- 9月：戦略目標の決定
- 10月：戦術の決定
- 11月：評価指標の決定（※みんなで作る博物館会議で意見を聴取）
- 12月：評価の枠組みとスケジュールの決定
 - 1月：個別事業の学びと改善のための評価手法の検討
 - 2月：個別事業の学びと改善のための評価手法の決定
 - 3月：評価制度の完成